

籠網漁具改良試験（昭和55年度技術改良試験）

専門技術員 久 貝 一 成

1. 要 約

- ① 瀬魚用籠網（底110cm、高90cm）を3個作成し、天然礁と並型魚礁域で試験した。
- ② 水深15m～55mのところで、独立、または、延縄方式で試験し、アミフェキ主体に14種類の魚等が入網確認された。
- ③ 昼間より夜間に入網率は高い。
- ④ 従来の丸平型（図-4、5）と丸立型（図-1～3）には、漁獲に大差はないが、水深40m以深では、丸立型が漁獲効率は高い。
- ⑤ 餌料効果は、魚類（イワシ、ムロアジ等）よりウニ（ナガウニ）が良い。

2. 目 的

本県沿岸の籠漁業は、潜水器使用による瀬魚籠、ガザミ籠、バイ籠漁業の3種がある。特に最近、瀬魚籠漁業における潜水病事故が発生していることと、定置網漁業との兼業が殆んどで専業化されていないことから、その対策上、漁具漁法の改善と漁場拡大による経営の安定を図ることを目的とする。

3. 材料及び方法

(1) 漁具の仕様

(名 称)	(材 料)	(規 格)		
イ 被 覆 網	ネトロンシート (プラスチック)	Z-3(黒)太さ4mm、	目合6角タテ22mm	ヨコ21mm
ロ 枠	鋼 銅 線	6.4mm	4.8mm	
ハ ジョーゴ網	クレモナ	250D	45本	目合7.5cm
ニ 〃	ネトロンシート	Z-3(黒)太さ4mm	目合6角タテ22mm	ヨコ21mm

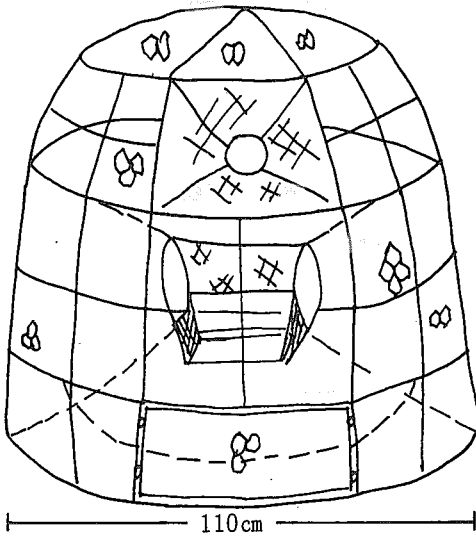


図-1 丸立型籠網

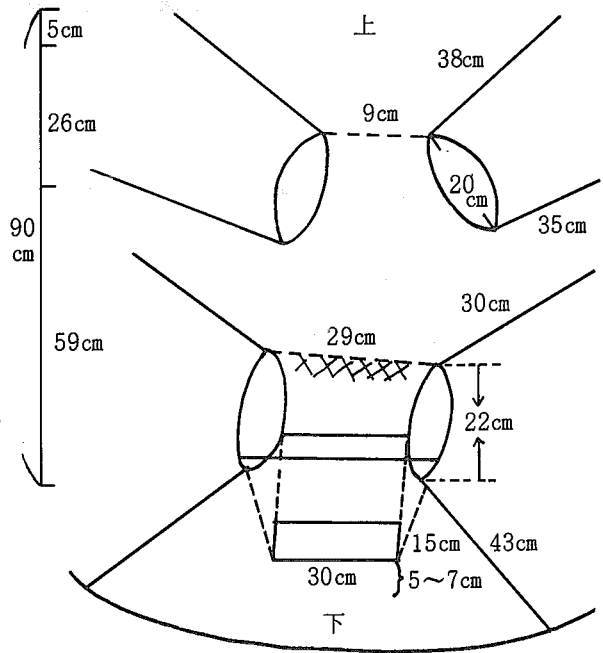


図-3 ジョーゴの形状

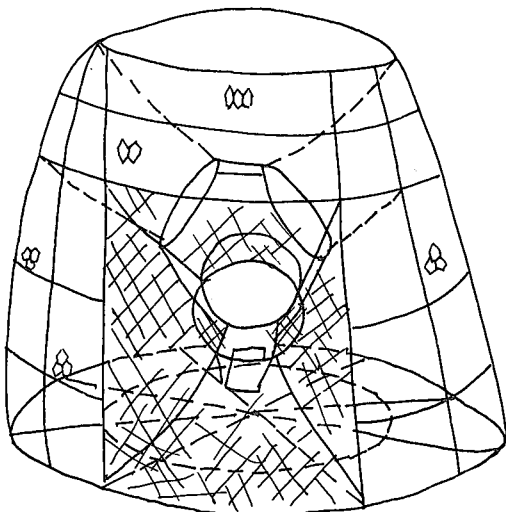


図-2 丸立型籠網 (入口の構造)

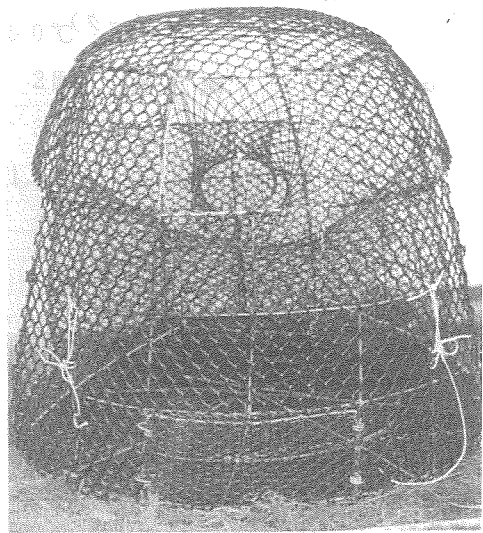


図-4 丸立型籠網の全体構造

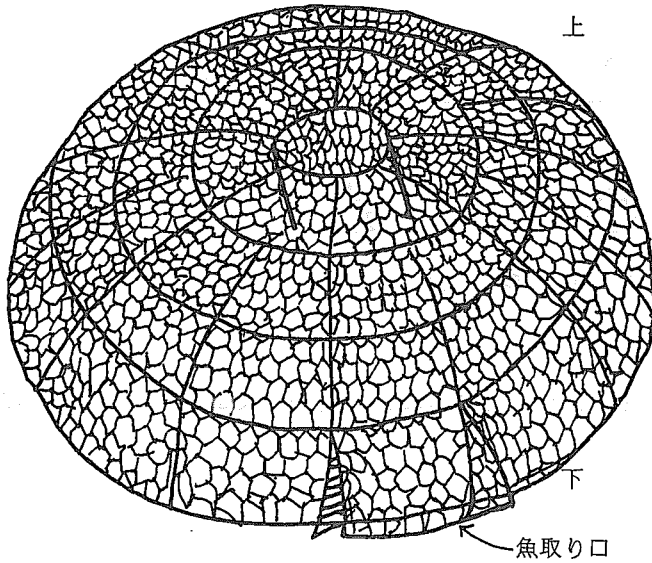


図-5 丸平型 (従来)
の籠網

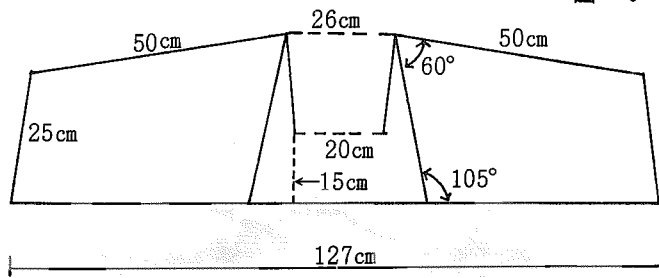


図-6 丸平型籠網の型枠

(2) 使用籠数

従来の丸平型1個 (枠—鋼銅、網—ネトロンシートZ-1(罫太さ4.5mm目合6角タテ33mmヨコ29mm))

丸立型3個 (枠—鋼銅、網—ネトロンシートZ-3(罫太さ4mm目合6角タテ22mmヨコ21mm))

(3) 試験操業の方法

揚網機を設置した漁船で、人工魚礁及び天然瀬礁近くで昼間は早朝入れて夕方揚げ、夜間は日没時に入れて翌日出直後に揚げた。操業はのべ4日間実施した。籠は、外側下方の周囲に約2kgのブロックを4個とりつけた(重りと安定化)餌は、ムロアジ、イワシ、ナガウニを使用した。

① 漁場……座間味島沿岸水深15~55m

② 漁期……専業、兼業とも周年(盛漁期5月~8月)

③ 使用漁船……3.8トン 35馬力 1隻

④ 操業図

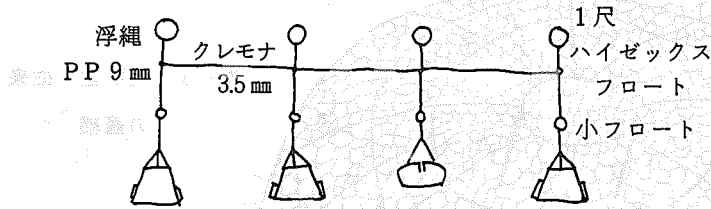


図-6 操業図

4. 結果

- (1) 入網率については、従来の丸平型と大差はないが、水深40m以深では丸立型が良かった。昼間より夜間が高い。
- (2) 安定性については、潮流0.3～0.65ノットの漁場で実施したが安定しており、多少の海底傾斜があっても倒れない。
- (3) 経済性については、折りたたみ式でないので多くは積めないが、定置性の漁具として使用し単体か数個1組で使用してくりかえし設置すれば相当数の籠で操業出来る。
- (4) 漁獲物



5. 考察

- ① 餌料効率が高く、未利用物であるナガウニ等の利用を図る。
- ② 従来の籠漁業（瀬魚用）が潜水器漁法であり、危険性を伴うことから、揚縄機を備え、定置性漁具として従来の水深30mまでしか利用できなかった漁場を拡大し、水深70～80mまで利用を図る。